

## 1. 調査報告概要表

作成日 平成20年4月3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2170400481
法人名	有限会社 夢家族
事業所名	グループホーム 夢家族・丸の内
所在地 (電話番号)	〒501-6244 岐阜県羽島市竹鼻町丸の内2丁目13-5 (電話)058-391-5992

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1
訪問調査日	平成20年 3月 25日

## 【情報提供票より】(20年3月6日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9人	常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 4.2 人	

## (2)建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷 金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	250 円
	夕食	450 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要(3月6日現在)

利用者人数	8 名	男性	4 名	女性	4 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 76 歳	最低 61 歳	最高 88 歳		

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	いわたクリニック・高田歯科
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム夢家族・丸の内は環線道路より1本中へ入った静かで落ち着いた普通の民家風の建物である。玄関には色とりどりの花が一杯咲き、イスも置かれとても温かい雰囲気が漂っている。近くには市民の森(公園)・市民会館・スーパーや飲食店・その他の商店もあり、生活環境が整った地域である。ホームでは毎日の散歩や買い物、定期的な外食、誕生日による利用者希望の食事会などがおこなわれている。また地域の老人の参加する音楽療法もある。さらに毎日30分の体操・レクリエーション・足浴も利用者の楽しみとなっている。個別の介護計画も充実し、入居者一人ひとりを大切にされた支援が確かな形になろうとしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善点は4点あったが、毎月1回ミーティングが行われ、運営に対する意見や、ケアプランに対する検討、運営理念の浸透が行われている。食事を楽しむことの出来る支援、金銭管理の支援、入居者の状態に応じた職員の確保、注意の必要な物品の保管、管理など積極的に改善の取り組みがなされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価はありのままに評価することで望んでいる。しかし、全員が評価の意義を理解し一緒に取り組まれたとは言えない。利用者の特徴を考えながら全職員が参加する、積極的な取り組みが望まれる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では利用者の状況や、グループホームの情報を提供し、サービスの向上に努めている。会議の内容は記録に残されミーティング等でも検討され活かされている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情受付窓口、意見箱も設置されている。民生委員や老人会長が外部の相談員の役割をしてくれる。月1回家族との連絡をとり、出来るだけ希望や意見を聞き運営に反映されるよう努力している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者の日常生活における方針は、普通に一人の人間として暮らせるよう利用者の希望や、能力にあわせて支援している。散歩や買い物、外食の折には、地域の人々と話しをしたり、子供達とも挨拶をするなど日常のふれあいも多い。自治会に加入し、音楽療法には近隣の人達の参加もあり、地元との交流を図っている。</p>

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は「安心感」を掲げ、地域の中でその人らしく暮らし続けていくサービスとして、事業所独自のケア理念を述べている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員と理念に対する考えを共有し、日常のサービスの中で指導し実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は自治会に加入し、地域活動に参加する努力をしている。また、行事や日常の散歩、音楽療法等に参加していただくなど地元との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は取り組みの事実をありのままに受け止め、客観的に評価しようとしている。しかし、全員で評価の意義を理解し、実施されたとは言えない。	○	担当者だけでなく、全ての職員が評価を実施する意義を理解し、具体的な改善に取り組まれるよう希望したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は外部の委員を含め、定期的に利用者の状況やサービスの情報の提供を行いサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市町村の担当者とは、会議以外にも常に連絡し相談や話し合いが出来ている。市町村担当者が音楽療法にも参加するなどホームの活動を理解しようとする姿勢もあり、相談できる関係ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月の生活便りで暮らしぶりや健康状態について報告している。金銭については本部から報告し、個々の家族への連絡も定期的に行われている。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	苦情相談窓口は運営者と管理者になっており、意見箱もあった。家族の意見は、運営に反映されている。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	運営者や管理者は離職者の出ない様相談に乗るなどし、最小限に抑える努力をしている。もし替わった場合でも変らぬサービスが受けられるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	事業所内外の研修を受ける機会をもうけ、知識や技術の習得が出来るよう努めている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム協議会に参加し、意見交換や勉強会がなされサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の性格や生活歴、家族等の思いを知り安心してサービスを受けられるようにしている。本人、家族の希望を聞き持ち込める品もあり、馴染めるよう工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	普通の暮らしの中に利用者と職員が支えあう関係作りに重点をおいている。食事の後始末、花の水やり等、共に学び支えあう場面が見られる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画の立案や見直し時は、利用者や家族の意向を記録し、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者が出来ること、興味のあることなど、一人ひとりにあった計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には3ヶ月ごとの介護計画の見直しがされているが、状況変化があれば家族や主治医・職員等により話し合い現状に即した介護計画の見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じ通院介助・外食支援、初詣、定期的な音楽療法をおこなっている、また必要に応じてふるさと訪問を計画している。		
<b>ふるさと訪問を計画している</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等の希望するかかりつけ医を大切に受診や往診を受けられるよう支援している。事業所の協力医の往診が月2回あり、受診の結果に関しては家族への報告もされ情報の共有がされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した利用者に対しては状態の変化があるごとに家族・医師・職員等を交えて話し合っている。また、職員全員で方針を共有し、状態を把握しながら介護支援をおこなっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>入</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を重視し、排泄時や電話の個人的な会話が他の利用者に分からないように配慮されている。又、面会簿の記録は職員が記入するようにして個人情報の配慮がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アセスメント等により利用者の把握に努め、その人らしい暮らしができるよう、その時の気分や体調に合わせた生活の支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるよう嗜好を把握し、献立表を作成している。時には希望を聞き即対応したり、誕生日には好きなメニューで食事会とする、また利用者も出きる範囲で準備や片付けなどおこない職員も一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの入浴パターンを把握し順番・お湯の温度などそれぞれの好みに合わせるようにしている。体調により入浴が出来ない人には清拭や足浴をおこなっている。入浴を拒否する利用者には時間をづらし、声かけして入浴してもらうよう工夫をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの得意分野を活かした役割を担当してもらい、掃除・茶碗拭きなどをお願いしたり、習字やぬりえ、折り紙等の支援をしている		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には体調を見ながら、毎日近くの公園に出かけたり買い物に出かける。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	調理場から玄関・共有空間が見渡せ、利用者の把握がされている。玄関近くをうろろされるような時は排泄が予測されたりと、職員の見守りと気づきにより声かけがされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て定期的な避難訓練、消火器の使い方など実施されている。地域方や家族の方に呼びかけがされているが、地域の方の参加はない。	○	地域の方の参加、協力が得られるような働きかけの工夫を期待したい。又災害に備えた非常用食料・備品の準備もされることを希望する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の栄養バランスを考えた献立を作成、時には利用者の要望を聞きメニューの変更をおこなっている。水分摂取はことあるごとに飲むようにして確保できるよう支援している。食事記録や水分摂取記録がされ職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広いスペースで、テーブルを囲み一人ひとりがゆったりと好きなことが出きる。厨房もその一角にあり一望できる状況にある。表通りも一望でき地域の方や車の行き来も眺められ、玄関先の季節の草花も目に入りとても心地よい環境になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれの思いで写真や仏壇・使い慣れた家具などが持ち込まれ利用者の居心地の良い配置がなされている。身体状況によりベット、畳の上に布団などの配慮がされている。		